

# 患者にとって必要な相談支援を考える

## － 相談支援（ピア・サポート）の現状と課題 －

第62回がん対策推進協議会資料 平成28年11月24日

### がん対策推進協議会委員

桜井なおみ 勢井啓介 難波美智代 馬上祐子 若尾直子

## 1. 現状と課題

平成23年度より3年間、厚生労働省委託事業として「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」が日本対がん協会によって実施され、がん患者・経験者等のピア・サポーターを養成する研修プログラムが開始しました。

がん患者の不安や悩みを軽減するため、経験者等が、治療や検査に向き合うがん患者に寄り添い相談支援に参加することは非常に有意義であり、患者からも大きな期待が寄せられていました。本プログラム作成には1億4千万円もの費用が投じられたことも理由の一つです。

しかしながら、平成28年9月30日に総務省行政評価による勧告がなされた通り、事業終了後は、本ピア・サポートプログラムの導入が十分に全国に進まず、**患者が必要としている時に支援が受けられない現状**があります。さらには、導入後の効果検証や改善が明らかにされておらず、患者等より「支援内容、仕組みに対する不安がある」とされています。

## がん対策に関する行政評価・監視—がんの早期発見、診療体制及び緩和ケアを中心として— の結果に基づく勧告(概要)

〔総務省行政評価局〕

### 背景等

- がんは、日本人の死因の第1位であり、年間約37万人が死亡し、生涯のうちに2人に1人ががんにかかる可能性があるなど、国民にとって重大な問題
- 政府は、がん対策基本法に基づき「がん対策推進基本計画」(平成24年度から28年度までを計画期間とする第2期計画)を策定し、がん医療、がんの予防・早期発見等に係る各種対策を推進
- しかし、基本計画の全体目標である「がんの年齢調整死亡率(75歳未満)<sup>(注1)</sup>の20%減少」は達成困難との予測。また、がん検診受診率は諸外国に比べ低調、緩和ケア<sup>(注2)</sup>の浸透は不十分、がん患者及びその家族への相談支援の充実が必要などの指摘あり
- 本行政評価・監視は、平成29年度以降の次期基本計画の策定に反映されることを企図

(注1) 人口の高齢化の影響を除いた死亡率 (注2) 病気に伴う心と身体の痛みを和らげ、患者の療養生活の質の維持向上を図るための治療・看護等

- 勧告日  
平成28年9月30日
  - 勧告先  
厚生労働省
- (調査対象)  
国立がん研究センター  
都道府県(17)  
市及び特別区(52)  
がん診療連携拠点病院(51)等

## 4 がん患者・経験者等による相談支援(ピア・サポート)の推進

### 調査結果

結果報告書 P 153~155

- 一部の都道府県では、ピア・サポート<sup>(注)</sup>研修が実施されておらず、拠点病院におけるピア・サポーターの受入れも不十分
- ・ 平成27年度において、調査対象17都道府県中、7都道府県ではピア・サポート研修が未実施
- ・ 研修実施実績のある都道府県内の36拠点病院中、ピア・サポーターの活動実績がないものが10施設

ピア・サポーターの活動実績のない拠点病院からは、「国が公的に認定する仕組みがなく、ピア・サポーターがどの程度の対応能力があるのか不明」など、ピア・サポーターの質に対する懸念あり

(注) ピア・サポートとは、がん患者・経験者及びその家族がピア(仲間)として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族などを支援していくこと

### 勧告

- 研修の開催指針の策定等を検討するなどにより、ピア・サポートを更に普及させるための措置を実施

## 2. 患者・経験者等よりの報告

- ① 山梨県のピア・サポート経緯と現況 (若尾直子委員)
- ② 徳島県での取り組みとピア・サポート体制案 (勢井啓介委員)
- ③ 小児がんピア・サポートの取り組み (馬上祐子委員)

### 3. 好事例の共有と調査報告

- ① 海外でのピア・サポートの現状
- ② ピア・サポートの実施状況と調査
- ③ 第三期基本計画への要望

(桜井なおみ委員)

---

### 4. 第三期がん対策基本計画策定への意見

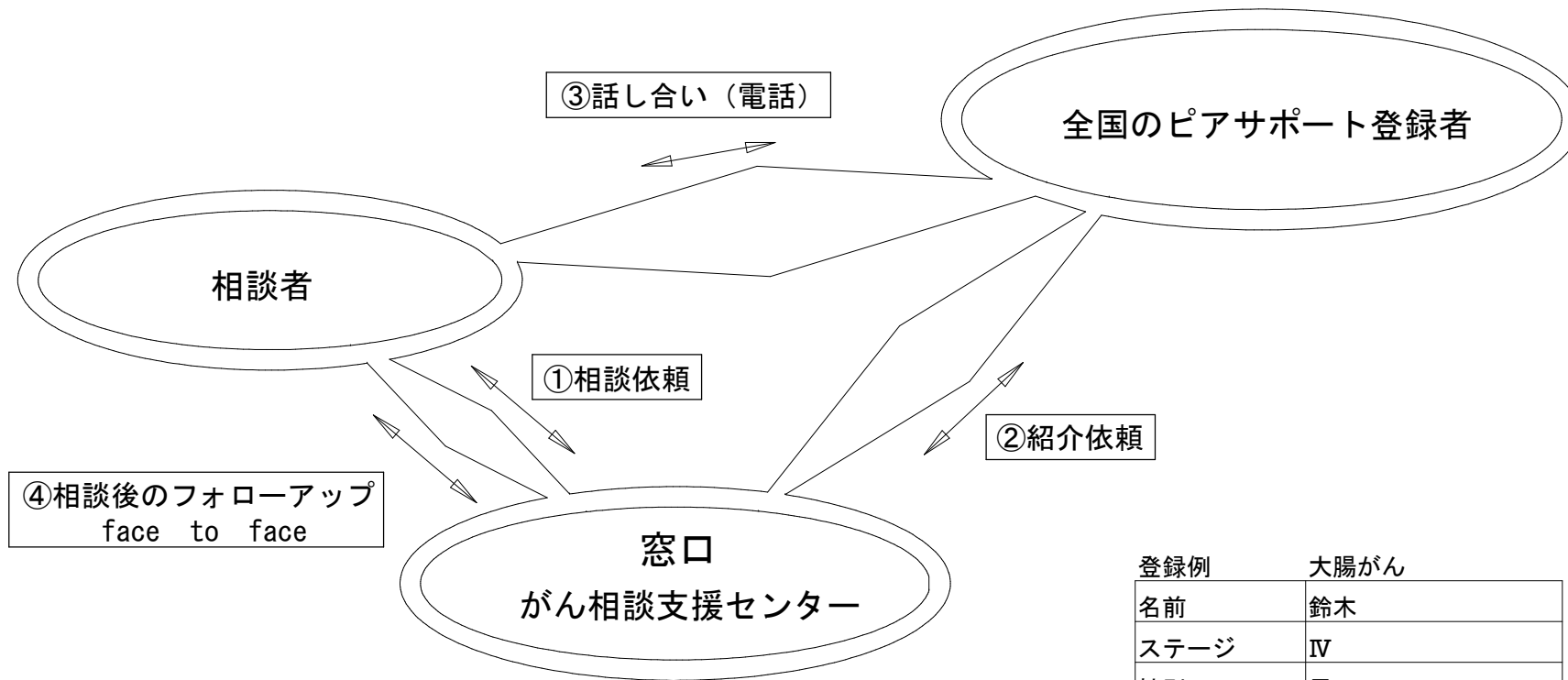
- ・ 研修プログラムの実施主体の一本化を検討
- ・ ピア・サポートの認知及び導入拡大を推進する
- ・ 関連学会及び地方自治体と連携し、質の担保をはじめとするサポート体制の強化を行う
- ・ 医療関係者に対して、必要な講義を義務づける
- ・ 全国での実態把握ならびに効果検証および改善策の検討を患者の意見をふまえ、定期的を実施する

## 5. 今後の議論について

- 本事業の反省点に鑑み実施された事業の検証および調査報告は必ず実施し、がん患者の利益を守る事業の推進を要望します。
- 支援内容の検証や研修の運用について、速やかに関係各所との連携を図り、早期改善を目指す議論の場を求めます。
- ピア・サポートを実施する、がん患者や経験者等への経済的支援および実施環境の提供など、ピア・サポート推進に向けた検討を求めます。

| 西暦年度 | 概容  | 備考   |
|------|---|--|
| 2007 | 山梨県がん対策推進計画策定   | がん情報提供と相談支援の充実が明記される   |
| 2008 | がん情報提供と相談支援の在り方検討会開催  | 1年間かけ、山梨県ではどうあるべきか議論<br>当事者の声を聞くことが必要と結論する                                     |
| 2009 | 山梨県主催の患者交流会開催（2回）<br>県はピアサポーター研修会開催のための予算計上                 | 「がん情報提供と相談支援の在り方検討会」の結論を受け、山梨県内の患者及び患者団体に広く意見を聞く                               |
| 2010 | 山梨県の事業としてピアサポーター育成を開始する<br>第1回山梨県ピアサポート研修会開催                | 全4回の研修とし、修了者には山梨県知事からの修了書を授与する。<br>修了生らは自主的にピアサポーター組織を立ち上げる                    |
| 2011 | 第2回山梨県ピアサポート研修会開催<br>山梨県は「がん総合相談」のための予算計上                   | 自主組織である「山梨がんピアサポート希望（のぞみ）の会」活動開始。財政的にも自主的にピアサポートを始める                           |
| 2012 | 第3回山梨県ピアサポート研修会開催<br>山梨県の事業としてがん総合相談としての「山梨県がん患者サポートセンター」開設 | 山梨県は「対がん協会山梨県支部」に、「山梨県がん患者サポートセンター」運営を委託。「山梨県がんピアサポート希望（のぞみ）の会」は、この事業に協力する（有償） |
| 2013 | 第4回山梨県ピアサポート研修会開催   | 甲府地域だけでなく、出張サポートを開始  |
| 2014 | 第5回山梨県ピアサポート研修会開催   | 山梨県がん診療連携拠点病院「山梨県立中央病院」に設置された乳がんピアサポートに協力（有償）                                  |
| 2015 | 第6回山梨県ピアサポート研修会開催   | 山梨県がん診療病院「山梨厚生病院」でも「山梨がんピアサポート希望（のぞみ）の会」会員によるサポート開始（有償）                        |
| 2016 | 第7回山梨県ピアサポート研修会開催中  | 現在の会員数 55 名<br>毎月1回の事例検討と定期的なスキルアップ研修会実施                                       |

# 全国の患者さんによるピアサポート体制案



| 登録例   | 大腸がん       |
|-------|------------|
| 名前    | 鈴木         |
| ステージ  | IV         |
| 性別    | 男          |
| 生年    | 1955       |
| 治療履歴他 |            |
| 備考    | 10時～17時対応可 |

## 小児がんピアサポートの取り組み

### 1. 小児がんピアサポートの必要性とこれまでの活動

小児がん患者は長期にわたる過酷な治療に加え、発達に伴う晩期合併症など身体的侵襲のみならず心理・社会的な問題をその後の人生に伴うことが多い。治療やその後の生活のあらゆる課題に家族が代理意思決定する場合も多く、子どもが病気を抱えながら発達成長する中で家族のサポートは不可欠ながら、多くの問題が存在する。小児がん親の会は20余年、小児がん患者の経験に基づく支えあいを実践してきた。このような中、2007年のがん対策基本計画策定によりピアサポートの重要性が認知され、成人のがんではピアサポーター養成研修が開始されるも、小児がん特有の疾病構造、治療経過などに基づいたピアサポート研修は存在しなかった。そこで全国の小児がん親の会・患者会の有志らが2013年「小児がんピアサポート推進協議会」を設立し、患者家族自身の経験やニーズに沿って小児がん患者家族を対象としたピアサポート養成研修プログラムを独自に作成した。講師には小児がん拠点病院の専門職の協力を得、小児がん拠点病院において年2回のペース開催している。この活動により、患者家族による支えあいが確かに広がりを見せている。

### 2. 小児がんピアサポーター養成研修会の内容

開催時期：2回/年 主催：小児がんピアサポート推進協議会

開催場所：小児がん拠点病院（関東・関西地区）

研修日程：2日間 6時間/日

研修内容：講義／小児がんの医学的知識（医師により2時間）、看護的知識（看護師により1時間）、社会資源の知識（SWにより1時間）、臨床心理士によるピアサポートの基礎知識（1時間）・サポーター自身の心のケア（1時間）

演習／ピアサポーターの心得・ピアサポートの実際（6時間）

### 3. 小児がんピアサポーター養成研修会の実績

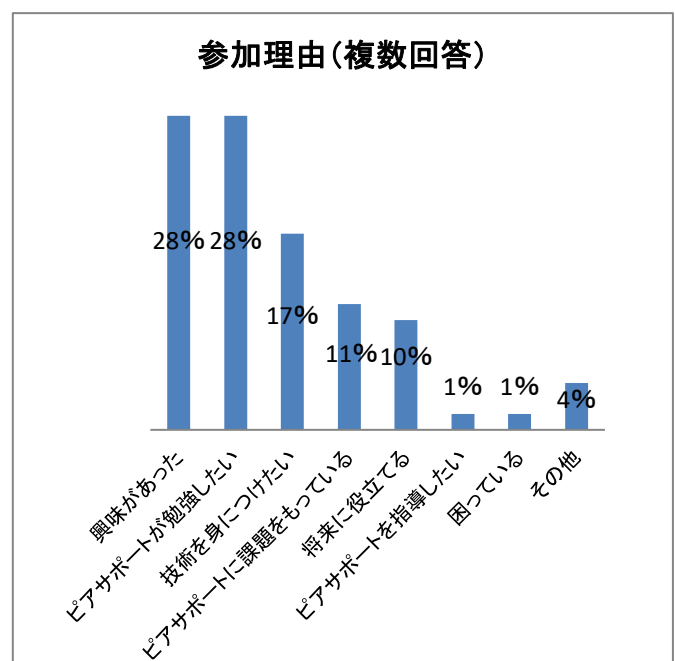
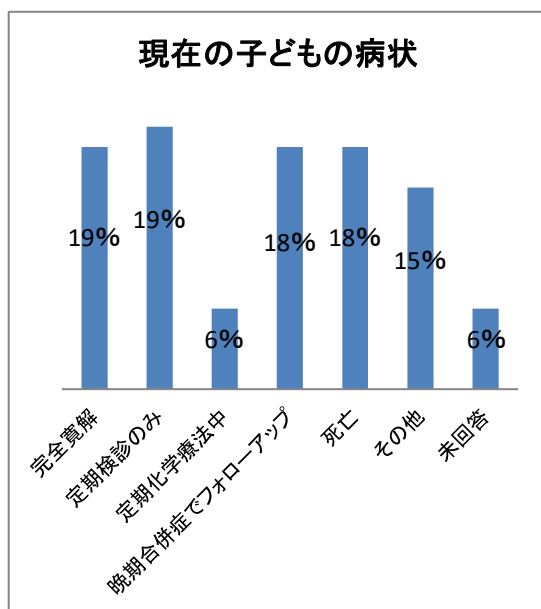
開催期間：2013年～2016年 計7回実施 \*2017年2月 第8回を開催予定

開催施設：国立成育医療研修センター、京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学病院、兵庫県立こども病院

参加者：

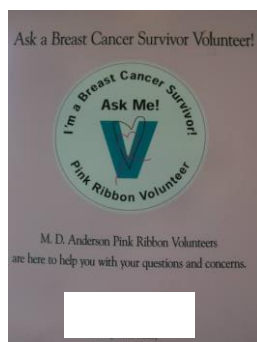
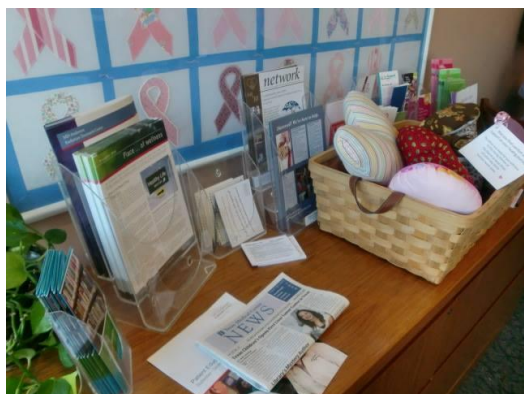
| 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度       | 合計(人) |
|--------|--------|--------|--------------|-------|
| 39     | 37     | 41     | 13(上半期の実績のみ) | 130   |

参加者の背景：





- 海外でのピアサポートの現状を知るためにいくつかのがんセンターを自主訪問した（UCSF,DFCI,MDACC,MEYO,JHCC）
- 支援の方法として、来談者中心療法の考え方を基礎とした① 1対1のピアサポート、②ファシリテーターによるサポートグループ、③エンカウンターグループ（回数が規定）が存在している。
- ピアサポーターの役を担うには、病院所定の研修プログラムを修了することが前提とされており、教育を受けた人間が試験期間を経てからボランティアで着任している（交通費の支援あり）。いくつかの病院では、診断から1年未満の患者はピアサポーターとして登録できない原則になっている。
- 病院側もピアサポーターの意義や重要性を認識しており、共通のバッチを作成をしたり、共通のユニフォームを提供、エレベーターやカフェなど、患者の目にする場所に掲示板を設置、応援をしている。運用ルールは病院ごとにあり、守秘義務や記録の提出などを含めた「契約」を行う。
- 重要な点として、①価値観を押し付けない、②医療介入はしない（ただし苦情は記録して共有する）、③マッチング（同じ悩みを持つ者同士であらう）ことが原則。サポーターは履歴書のほか、既往歴や学歴、人種や宗教なども記入して提出する。任期は1年。
- グループ療法はテーマが設定されたものが多く、部位別、世代別サロンのほか、治療方法に関する急性期の悩みに対応した教育的志向が強いプログラム、就労や経済、食生活、運動など慢性期に及ぶものも多数用意されており、参加費は無料となっている。





# 当会でのピアサポートの実施状況と第三期基本計画への要望

- 当会では2008年から夜のサポート・グループ（月1回）、並びに、1対2（相談者1名に2名のサポーター／国家資格所有者、ピアサポーター研修修了者）によるサポート（月4コマ：1コマ50分、現在は電話会議で対応）を実施。
- 相談内容は生活、コミュニケーション、働き方や新規就労の方法、経済的な悩みに関することが多く、診断直後のみならず5年以上経過した患者、希少がん、難治性がん、再発進行がんの患者、家族の他、指定難病患者からの問い合わせがある。
- 昨年までの相談者へのアンケート調査により、ピアサポーターによる介入効果が明らかになっており、相談者の76.8%が不安軽減（不安が大きな人ほど改善効果が高い）、72.1%が行動変容、問題解決の役立ち度は55.8%との結果を得た。
- ピアサポートプログラムは、総合相談支援事業終了後、①研修プログラムの実施主体がバラバラ、②プログラム自体の存在が認識されていない、③医療機関がピアサポーターを導入していない（院内サロンも同様）が現状。質の担保と研修修了者の活躍先を確保するため、学会などと連携した事業継続などが急務である。

一般社団法人CSRプロジェクト 働き盛りのがん経験者・家族・医療従事者・企業ネットワーク



Cancer Survivors Recruiting Project | 企業の方へ |

会員ログイン

CSRプロジェクト

- サバイバーシップ・ラウンジ
- 患者さんのための就労相談  
～ ほっとコール ～
- 医療者・人事担当者のための  
～ 就労サポートコール ～
- 販 売

まだ会員になっていない方

- 個人会員申込
- 賛同団体申込
- 個人会員について
- 賛同団体について

サバイバーシップ・ラウンジ

サバイバーシップ・ラウンジ

雇用継続や就職・復職への悩みや不安について、ファシリテーターを中心に話し合い、同じ体験をした仲間から、解決のヒントや心のもちよう、似たような経験や情報を提供しあい、働くエネルギーを分かち合いましょう。愚痴よし！悩みよし！笑いあり！心と身体をリフレッシュし、JOBをJOYに変えましょう！帰りは、ちょっと気持ちが前向きになれるプログラムです。  
※訴訟の仲介、就労斡旋などは一切行いません。

|       |  |      |             |
|-------|--|------|-------------|
| 参加対象者 | 働くがん体験者（雇用形態は問いません）もしくは、今後働く意志のあるがん患者（復職・休暇中を含む）   |      |             |
| 実施日   | 実施週  | 実施曜日 | 実施時間        |
|       | 第2   | 木曜日  | 19:00～20:30 |
| 利用料金  | 会員・非会員ともに 500円   |      |             |
| 実施場所  | 以下の場所にて開催いたします。<br>★パナソニックグループ本部会議室（東京都千代田区大手町2-6-4）<br>★具体的な集合場所等については、お申込みを頂いた方に別途ご連絡させていただきます。<br>★遅れる方に関しましては連絡先の携帯電話をお知らせします。 |      |             |

1. はじめに

一般社団法人CSRプロジェクトでは、2012年から無料電話相談「就労セカンドオピニオン・ほっとコール」を毎月開催してきた。

相談者の概要については、各回ごとに記録をしているが、無料電話相談の介入効果については、これまで検証してこなかったことから、本研究では、2012年から2015年の電話相談利用者のうち、アンケート調査協力に同意を頂いた利用者を対象に「満足度」調査を実施した。

- 調査主体：一般社団法人CSRプロジェクト
- 助成金：(公財)がん研究振興財団がんサバイバーシップ研究支援事業
- 調査方法：WEBアンケートを用い、これまでの電話相談利用者130人にアンケートを配信、回答者は43人(回答率33%)
- 調査実施期間：2016年2月1日(月)～2016年2月29日(月)
- 対象者：2012年～2015年の無料電話相談利用者 130人

○回答者の属性

- ・回答者属性の性別の比率は、男性23.3%、女性76.7%
- ・就労状況別では、「就労していた」が男性11.5%、女性88.5%。「現在の就労状況」は、「正社員・正職員」が59.1%、「パート・アルバイト・契約社員・嘱託」31.8%、「派遣・請負」9.1%。
- ・回答者の年代は回答者属性の年齢の比率は、「20代」4.7%、「30代」20.9%、「40代」30.2%、「50代」34.9%、「60代」9.3%。
- ・回答者属性の居住地は、東京都が20人と約半数を占めている他、千葉県が6人、埼玉県、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県が各2人、北海道、青森県、岩手県、長野県、静岡県、愛知県、京都府が各1人。
- ・「就労ほっとコールの相談理由」は、「職場の理解・人間関係」24人、「今後の働き方」19人、「会社・同僚への伝え方」17人、「就職・再就職・転職」「社会保険等制度」「雇用継続」が各9人、「休職・復職」「経済問題」が各3人。

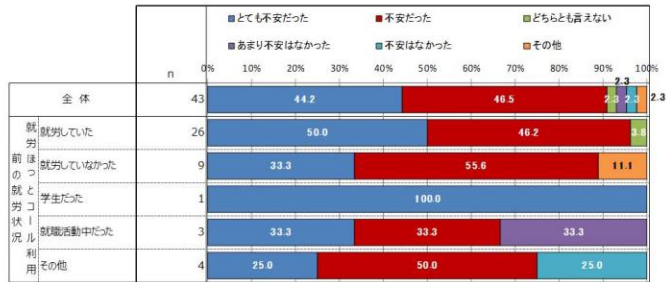
就労相談は、傾聴や共感などの基本的な相談支援スキルに加えて、雇用や労働などの法制度知識も必要

こうした介入を行うことで、相談者の7割が行動変容、不安感を軽減

「就労ほっとコール」は、就労相談というより専門性、個別性が高い相談テーマに対してケアしケアされる存在へと変化した「ピアサポート」の新しい姿であり、サバイバーシップの具現化の一つと言える

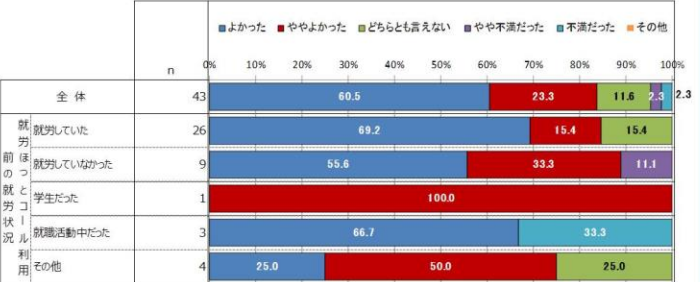
■電話相談前の気持ち

「電話相談前の気持ち」は、「不安だった(計)」が90.7%で、その内訳は「とても不安だった」44.2%、「不安だった」46.5%となる。



■電話相談後の評価

「電話相談後の評価」は、「よかった(計)」が83.8%で、その内訳は「よかった」60.5%、「ややよかった」23.3%となる。



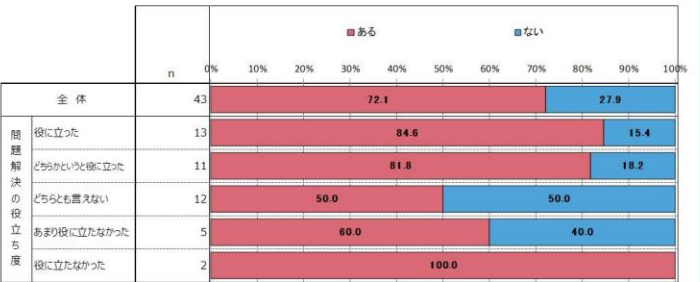
■相談後の行動変容 I

「相談後の行動変容」は、「行動したことがある」が72.1%で、「行動したことはない」が27.9%。就労・非就労に関わらず、72.1%が「就労ほっとコール」利用後に何らかの行動変容につながっている。



■相談後の行動変容 II

問題解決の役立ち別では、「役に立った」では「行動したことがある」84.6%、「どちらかという役に立った」では「行動したことがある」81.8%、「どちらとも言えない」では「行動したことがある」50.0%。「ほっとコール」が役に立てたつど、高い行動変容が期待できた。



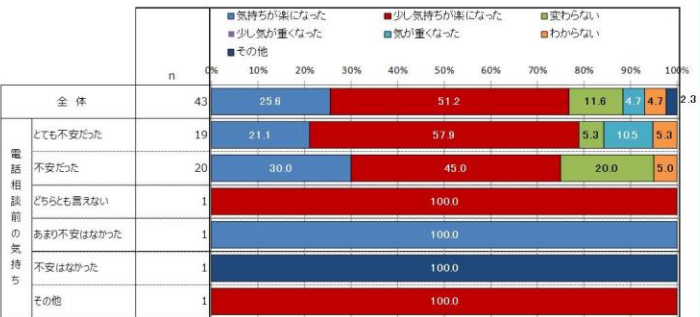
■問題解決の役立ち度

「問題解決の役立ち度」は、「役に立った」が55.8%。相談前の気持ち別にみると、「とても不安だった」では「役に立った(計)」42.2%、「不安だった」では「役に立った(計)」65.0%となる。利用前の不安が大きいほど、役に立ったと思う人が多くなる。



■就労ほっとコール相談後の気持ちの変化

「相談後の気持ちの変化」は、相談前の気持ち別にみると、「とても不安だった」では「気持ちが楽になった(計)」79.0%、「不安だった」では「気持ちが楽になった(計)」75.0%。相談をすることにより、気持ちが楽になったという割合も高いことがわかる。



●まとめ

- ・本調査では、病院内で行う就労支援に比べ、がんを専門にする社会労務士や社会福祉士「就労ほっとコール」の利用者が、具体的な行動化に至るレベルまで一緒に考えることが主体的な「行動変容」や「不安の軽減」を導いていることが推測される。このように、「就労ほっとコール」は、就労を幅広くサポートするものであり、病院内では支援しきれない個別的部分もサポートしてくれる重要な窓口だと考える。
- ・「就労ほっとコール」を担当するがんサバイバーは、社会労務士や社会福祉士、キャリアコンサルタント、人事担当者、産業カウンセラーといった、就労に関する専門的な社会資格を取得し、その専門的立場から多くのがんサバイバーの経験を通じて重要な役割をしている。これは、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターでは対応することが難しい、より個別性の高い就労相談の新しいスタンスである。
- ・年間85万人ががんになる時代に入ると、治療や療養の場が病院内ではなく、病院内にシフトしている。がんサバイバーは、ケアを受けるだけの存在ではなく、ケアしケアされる存在へと変化する。その一つの取組みが「就労ほっとコール」であり、「就労」というより専門的・個別性の高い「ピアサポート」の新しい姿とも言える。

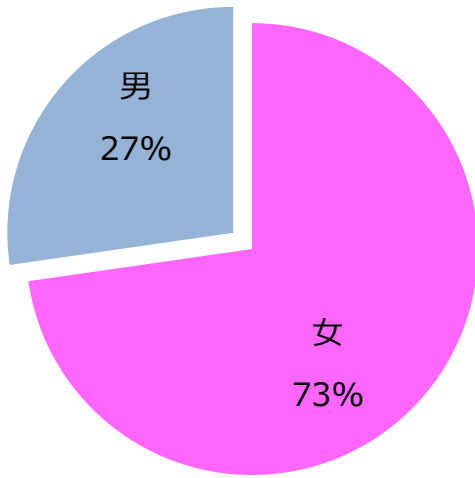
●課題

- ・本調査は3年分の利用者調査となっている。そのため、回答者によっては、相当に時間が経過した者もいる。今後は、電話相談から半年以内でのアンケート調査が好ましい。
- ・データの特徴【男女比：男性23.3%、女性76.7%、就労状況：男性11.5%、女性88.5%、地域性：東京在住の人数が全体の46.5%】から考えると、男女比、それに伴うがん種の偏り、地域性などにより、本調査は限界がある。
- ・また、不安や悩みについては、心理学的スコアや医学評価指標は用いておらず、スコアによる評価なども今後導入することが好ましい。

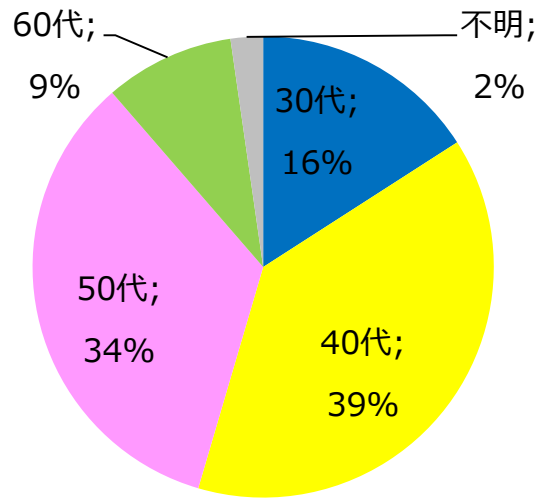
アンケートに協力いただいた回答者の皆様に、厚く御礼申し上げます。



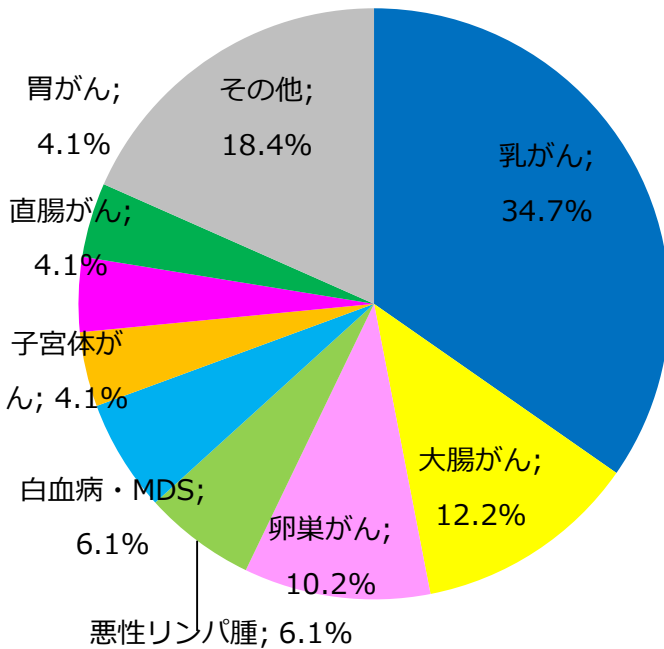
## 1. 性別



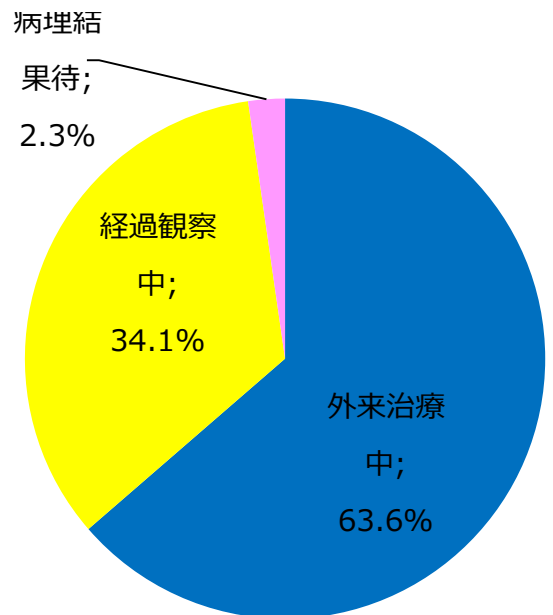
## 2. 年代



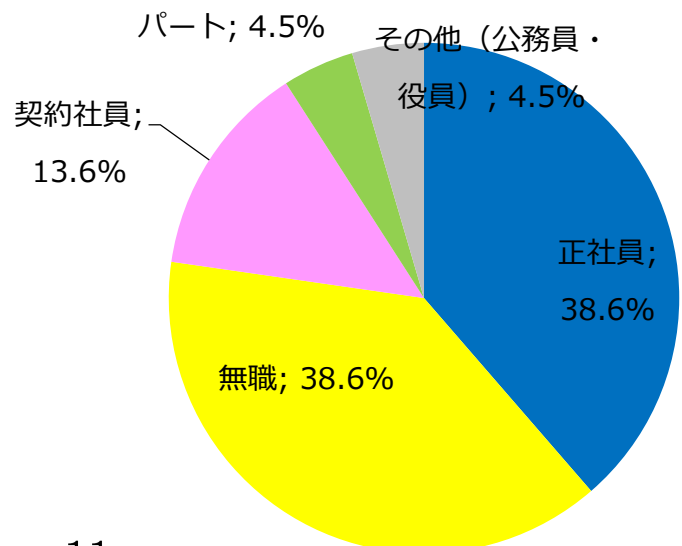
## 3. 疾患名



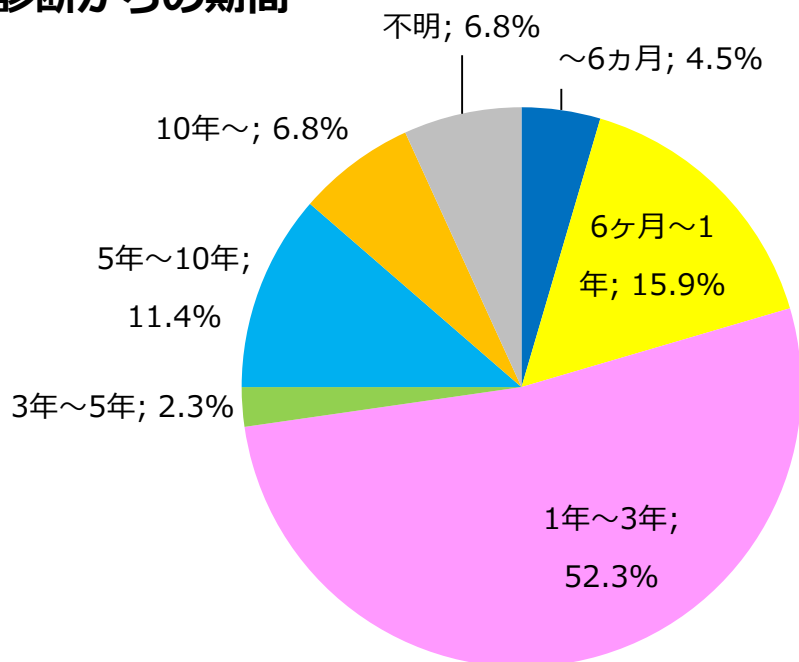
## 4. 現在の治療状況



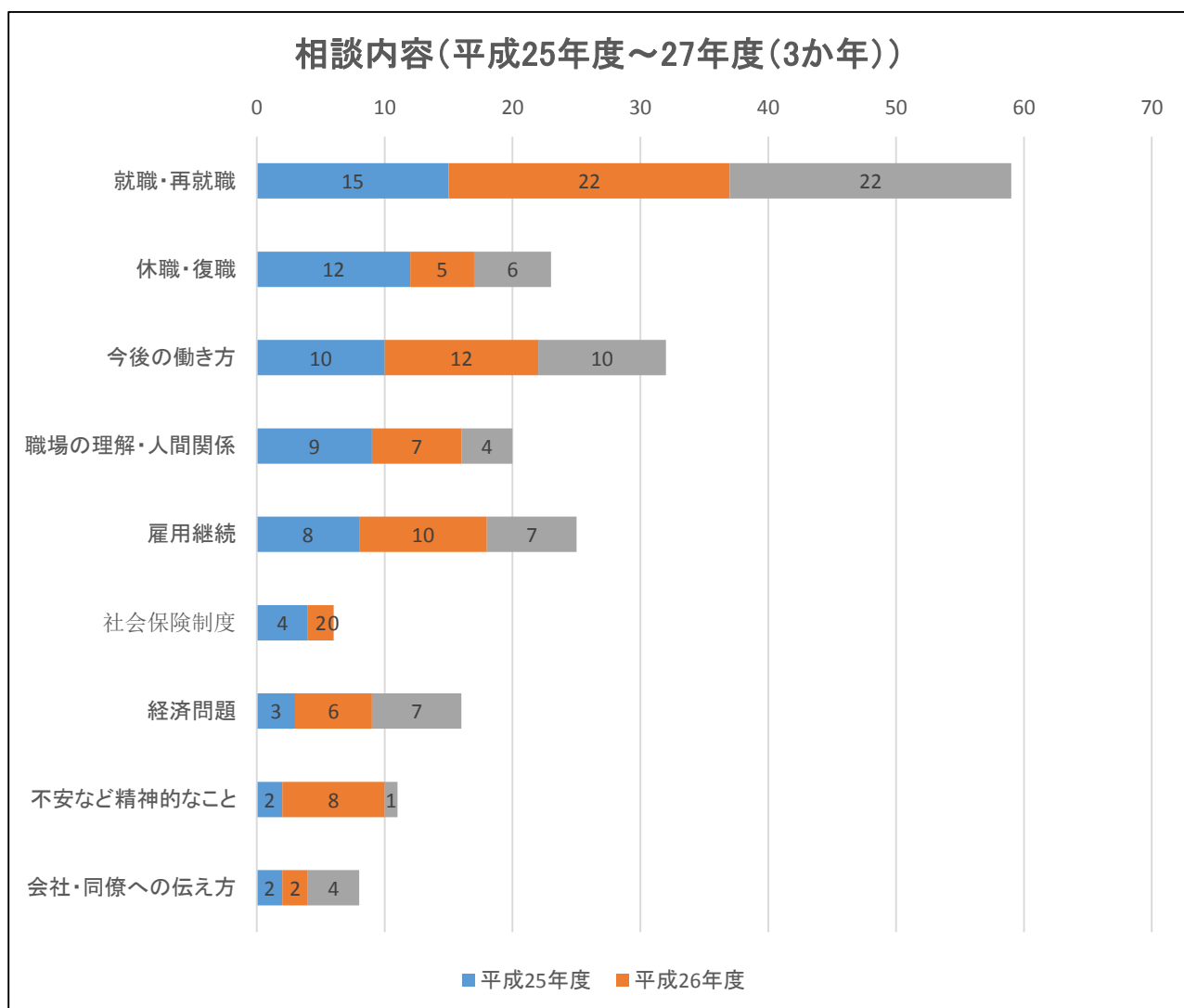
## 5. 現在の就労状況



## 6. 診断からの期間



### <参考> 相談内容・過去3か年累計





\* 難病・慢性疾患の方の相談もお受けいたします。

がんサバイバー・ご家族向け 無料電話相談

# 就労ほっと



ご家族の方も  
お気軽に  
お電話ください。

働きながら治療を続けるには、心と身体、仕事のバランスをとることが大切です。

いつ復職したら？面接は？退職を勧められた…  
1人で抱え込まないで思い切って第三者に相談してみませんか？

がんを経験した社会保険労務士、産業カウンセラー、キャリアカウンセラーなどが電話にて対応いたします。

電話代は一切かかりません。携帯電話からでも大丈夫です。

※訴訟の仲介、就労斡旋などは一切行いません。 ※相談時間はひとり50分です。

## お申込み 方法

事前予約制になっておりますので、

ご希望の日にちを一般社団法人CSRプロジェクトの  
ホームページからお申し込みください。

<http://workingsurvivors.org/secondopinion.html>

※折り返し担当者よりご連絡いたします。

**CSRプロジェクトについて：** 一般社団法人CSRプロジェクトは、「がん罹患と就労」による政策提言や研究、課題を、継続して解決するために立ち上げたがん経験者・家族支援プロジェクトです。働き世代のがん患者が職を失うことは社会的アイデンティティや生きがいの喪失にもつながり、人生の質（QOL）が著しく損なわれます。CSR for CSRをスローガンとし、がんとともに歩む人々が、生きる意欲や様々な能力を十分に発揮できる協働・共生型社会の建設こそ、進むべき未来の姿であると私たちは信じています。

# 就労 サポートコール

医療従事者や  
人事労務担当者など  
サポーター向けの  
※対象：医療従事者・人事労務担当者  
無料電話相談！

がんは治療を続けながら働く時代となりました。  
職場でも、病院でも、「がんとともに働き続けること」に  
向き合う時代が来ています。

このたび、職場や病院などの現場で、実際のがんサバイバーに対応するサポーター  
(医療従事者・人事労務担当者など) 向けの相談・照会事業を開始しました。  
休職や復職、法律や制度など、対処や相談の上での生じる疑問や困った！はありませんか？  
長年、がんサバイバー・ご家族向けの就労相談を受けてきた経験豊富な  
社会保険労務士・社会福祉士・キャリアコンサルタントなどが電話にて対応いたします。

がんに罹患した社員を  
どう処遇してよいか分からない。

入社時の健康診断について  
質問されたが、実際のところどうなの？

会社の制度や法律が、今一つ分からなくて  
具体的な支援につながらない。

相談者に聞いたら会社に休職制度がない  
とのことだが、それは違法ではないの？

などなど

対象者 ● 医療従事者・人事労務担当者  
相談日 ● 毎月複数回 10:00～17:00  
(相談日の詳細はホームページで告知いたします)

相談料 ● 無料 (ただし、通話料はご負担ください)  
相談時間 ● 30分を限度とします。

#### お申込み方法

事前予約制となっておりますので、一般社  
団法人CSRプロジェクトのホームページから  
お申込みください。

<http://workingsurvivors.org/sp-call.html>  
折り返し担当者よりご連絡いたします。